日本人観光客で賑わったお盆休みシーズンの台北をレポート

コロナ感染症が５類に分類されてから初となるお盆休み、台湾各地の観光地が多くの日本人で賑わった。３年振りとなる台湾旅行を楽しんだ人も非常に多く、街には日本語を話す声が飛び交っていた。**台湾の観光局は今年、海外からの旅行客の目標数を600万人に定めていたが、この目標はすんなりと達成できそうだ。**

今年のお盆は台風７号が日本に襲来し各地で猛威をふるっていたが、台湾も台風の影響は少なからず受けており、雷を伴った大規模な豪雨が台湾各地で発生した。特に台北で起きた冠水は非常に珍しく、低い地域にある商店街などが、後始末に追われていた。

画像１

**冠水した台北市内の様子**

画像２

**多くの日本人で賑わう小籠包のレストラン**

画像3

**台湾を代表するグルメのひとつ**

度重なるゲリラ豪雨にもかかわらず、各地の有名店が日本人観光客で賑わった。

コロナ禍の３年間客足が伸びなかった飲食店も、お盆休みシーズンにはすっかりコロナ前と同じように賑わいを見せていた。

画像４

**マッサージ店も台湾観光には欠かせない店のひとつ**

マッサージ店は台湾のコロナ禍で最もダメージを受けた業種と言っても過言ではなかったが、各店舗が満席となり、休職を余儀なくされていたマッサージ師も無事仕事が出来るようになったようだ。

画像 5

**天気に恵まれた迪化街の様子**

日本人観光客で最も賑わったと言えるのが、やはり人気の乾物街**“迪化街ディーファージエ”**だ。コロナ前と同じように、多くの日本人が買い物を楽しんだようだ。また、今月は花火大会を兼ねたイベントも開催され、海外からの観光客のみならず、地元の台湾人も多く訪れている。

すっかり日常を取り戻した台湾、円安と航空券の値上がりがまだまだ影響しそうではあるが、これから更に多くの外国人観光客が訪れると見込まれている。